

6. バブルラップ

バブルラップという商品がある。これは誰でも一度は見たことがある物だが、初めて作られた時は、今と全然違う使い方だった。この商品の使い方はどのように変わって、そして、どうやって世界に広がっていったのだろうか。

ある発明品が、最初の使い方ではなくて、別の使い方で価値が出ることもある。

1957 年にアメリカ人エンジニアのアルフレッド・フィールディングとスイス人発明家のマルク・シャバンヌは、それまでにない新しい壁紙を作ろうとしていた。二人は、2 枚のシャワーカーテンを貼り合わせて、その間に空気の泡を閉じ込めた。完成した壁紙は、空気の泡でデコボコしたものだった。しかし、その壁紙はほとんど売れなかった。それで、シールドエアーという彼らの会社は、この壁紙をビニールハウスの覆いとして売ることにした。これは少し売れたが、彼らはまだまだ満足しなかった。

そんなとき、二つの出来事が重なって、全く新しいアイデアが生まれた。一つは、コンピューター会社の IBM が 1401 という新しいコンピューターを作ったことだった。そしてもう一つは、シールドエアーの社員が飛行機に乗っていたときに、ある景色を見たことだった。

1959 年のある日、シールドエアーの社員のフレデリック・バウワーズは、飛行機に乗っていた。飛行機の窓から外を見ると、飛行機の下に広がる雲が見えた。雲はまるで柔らかい枕のように、飛行機をやさしく支えていた。その瞬間、彼は歴史に残るアイデアを思い付いた。商品を保護するために、シールドエアーの発明品を使ったらどうだろうか。運ぶ途中で壊れてはいけなようなデリケートな商品・・・例えば、コンピューター！

バウワーズは IBM に行って、自分たちの発明品を紹介し、どうやって使うのか説明した。IBM の人たちは発明品を気に入って、1401 を保護するのに使うことを決めた。1401 はその後、世界で最もよく使われたコンピューターの一つとなったのである。

コンピューターだけではなく、デリケートな商品をどうやって保護するかは、多くの会社の長年の問題だった。この新しい梱包材の素晴らしさが理解されると、この梱包材はどんどん広がっていった。

今、この梱包材はバブルラップとして知られている。企業が高価な商品を包んだり、誕生日プレゼントを郵便で送るときに包んだり、いろいろな所で使われている。そして、子どもたちがバブルラップを潰して音を鳴らして遊ぶこともある。しかし、これを壁紙として使っている人はいないだろう。

今では、シールドエアーは世界的な会社となって、毎年地球 10 周分の長さのバブルラップを作っている。

単語リスト：

発明品（はつめいひん）	Sản phẩm được phát minh	保護する（ほごする）	Bảo vệ
壁紙（かべがみ）	Giấy dán tường	途中で（とちゅうで）	Nửa chừng
完成（かんせい）	Hoàn thành	曇（くも）	Mây
空気（くうき）	Không khí	デリケートな	Tinh vi
ビニールハウスの覆い（おおい）	Đồ phủ nhà	梱包材（こんぽうざい）	Vật liệu đóng gói
nylon (trồng cây)		潰す（つぶす）	Bóp bể
飛行機（ひこうき）	Máy bay	地球（ちきゅう）	Trái đất
思い付く（おもいつく）	Nghĩ ra		